

養護学校の生徒たちが案山子立て

鎌倉高校内にある藤沢養護学校鎌倉分室の生徒10人が、長さ2メートルくらいの大きな案山子（かかし）を作り、9月15日、森雅仁さんら2教諭といっしょに、それを担ぎ30分余り歩いて、広町緑地の田んぼに運んで来ました。

田んぼにはスズメ除けのネットが張っており、ネットを止める支柱として、田んぼの四隅には太めのマダケが埋めこんであります。生徒たちは最も堅牢そうな支柱を選び、案山子をそれに添えて立てることにしました。



案山子の足にあたる竹も、鋸で斜めに切って、泥に刺しやすくしました。支柱に並べて、案山子の足を刺すと、ずぶっと50センチぐらい、泥にめりこみます。そのうえで、案山子の足元、腹と胸あたりの3か所を麻縄で支柱に結びました。



ぎょろり、鬼の顔

しっかり固定された案山子。その顔が高校1年生の生徒たちの頭より、上にそびえています。口を大きく開け、黒目がぎょろり。「スズメが怖がるように、鬼の顔にした」と生徒たちは言いました。なるほど、スズメ除けの効果は高そうです。

認定NPO法人・鎌倉広町の森市民の会が運営する小学生が中心の「かまくら緑の探偵団」が17日に、案山子を10本ほど作って立てる予定です。ドラえもん顔やアンパンマン顔の案山子が鬼顔に加わり、賑やかに田んぼを彩ることでしょう。

広町田んぼの会